

2018年度しあわせ研究

しあわせにつながる
実習体験発表会

研究員 山本 摂子



ションを行いました。ディスカッションでは、学びが大きいが大変さを伴う実習体験を活発に語り合い、理解し合っていました。そして、実習時の心境の共有と共感を得たことは有益で良い経験だと思ったようです。

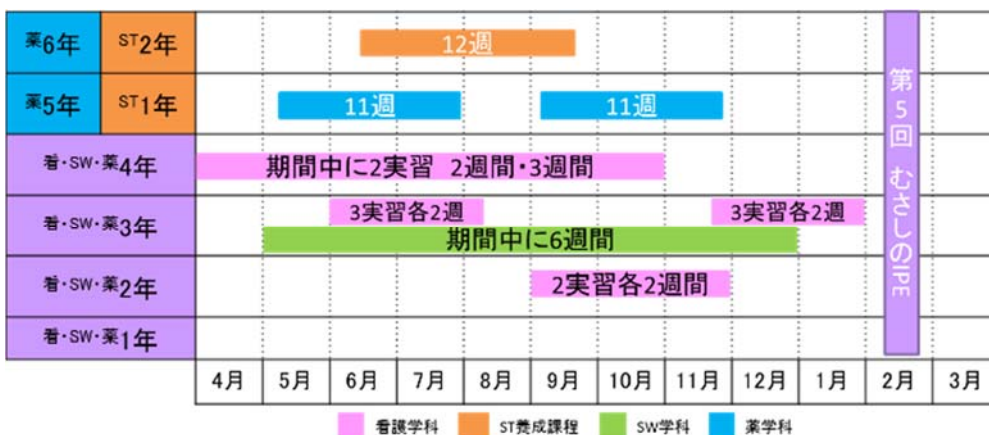
本学医療福祉系学科学生が、学生時代に専門職連携について学ぶことを目的に、しあわせ研究員である4学科の教員7名が「むさしのIPE」として協働し、2016年から7回のイベントを開催、のべ200名の学生が参加しました。今回は、2017年と2018年2月に開催した、しあわせにつながる実習体験発表会についてお伝えします。

この結果を前野隆司先生が提唱する“しあわせの4因子”の視点から捉えると、社会要請の明確な専門職を“やってみよう”と目指した学生同士が、学びを得るが辛さも伴う実習体験を通して心からつながり共感しあう中で、“ありがとう”という感謝の気持ち生まれ、互いに“なんとかなる”と前向きになり、専門職を目指して学習を重ねる“ありのままに”いる自分として、さらに専門職を目指し“やってみよう”というサイクルが生じていると考えられるのではないのでしょうか*。学生のしあわせにつながる「むさしのIPE」の活動に今後ご注目ください。

前半は、学外での臨床実習を体験した参加学生がそれぞれの学科の実習について発表しました。実習学年・時期・期間（表参照）、実習内容は学科ごとに異なり、学生や教員は違いに驚きながら共有しました。後半は、学生たちは学科混合のグループに分かれ、実習体験についてフリーディスカッ

*引用文献：前野隆司（2017）無意識の力を伸ばす8つの講義、講談社

表 参加学生の臨床実習実施学年・時期・実習期間



世界の幸せをカタチにする。
Creating Peace & Happiness for the World



Musashino University Creating Happiness Incubation

武蔵野大学しあわせ研究所

電話：03-5530-7730

東京都江東区有明3-3-3

メール：mhi@musashino-u.ac.jp